スキルス胃癌、膵癌、大腸癌に対する腹腔内化学療法の研究開発

ー難治性がんの克服を目指してー

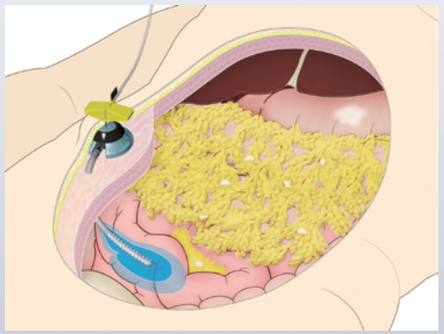
全国の医療機関と協力して腹膜播種を抑えるための
新しい治療法の研究開発を行います。

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

腹膜播種・腹腔内化学療法について

胃、腸、膵臓などの臓器とお腹の壁の内側は腹膜という膜で覆われています。腹膜で覆われた空間のことを腹腔（ふくくう）といいます。
臓器にできた癌が進行すると、癌の表面から癌細胞が腹腔の中にこぼれ落ち、腹膜に付着して大きくなる腹膜播種（ふくまくはしゅ）を起こすことがあります。

一般的な全身化学療法では、ごく少量の抗癌剤しか腹膜播種に届かず、十分な効果は得られません。



腹腔内化学療法とは、腹膜播種が散らばっている腹腔の中に抗癌剤を直接注入する治療法です。
お腹の皮膚の下に埋め込んだ腹腔ポートから生理食塩水に溶かしたパクリタキセルを注入します。

全身化学療法と比べて極めて多い量の抗癌剤を直接腹膜播種に届けることができ、より効果的です。
また、副作用が少ないという利点もあります。
腹膜播種がみられなくなって手術ができ、長い間生きている患者さんもいらっしゃいます。

本プロジェクトの対象疾患と臨床研究

スキルス胃癌

胃の壁が硬く、厚くなるタイプの進行胃癌です。他のタイプの胃癌と比較して、若い方や女性に多く、腹膜播種を起こしやすいという特徴があります。手術で切除できた場合でも、腹膜に再発する危険が高いことが知られています。

第Ⅲ相医師主導治験

腹膜播種がないスキルス胃癌の患者さんを対象として、胃切除に加えて標準的な化学療法を行う方法と腹腔内化学療法を併用する方法を比較します。全国の 40 施設より 300 名の患者さんにご参加いただき、再発率を比較します。
http://plaza.umin.ac.jp/~phoenix2/scirrhous/

膵癌

早期の診断が難しく、肝臓や腹膜などへの転移を伴うことが多いため、手術で治せる患者さんは限られています。近年の化学療法の進歩にもかかわらず、特に腹膜播種のある患者さんでは治療成績が向上していません。

第Ⅰ/Ⅱ相試験（先進医療）

腹膜播種を伴う膵癌の患者さんを対象として標準的な化学療法と腹腔内化学療法を併用する治療法の臨床研究を実施しています。
現在までに 12 名に治療を行い、適正な薬の量を決定しました。
今後 32 名の患者さんにご参加いただき、効果を評価します。
https://todai-tansui.com/research/announcement20190710.pdf

大腸癌

国内において癌の中で最も頻度が高く、近年増加傾向にあります。女性では癌による死因の第 1 位となっています。腹膜への転移は診断が難しく、手術で取り切れないほど進行して発見されることが多くなっています。

第Ⅱ相医師主導治験

大腸癌の腹膜播種を有する患者さんを対象として、標準的な化学療法と腹腔内化学療法を併用する治療法の治験を実施します。
既に第一段階の臨床試験を行い、安全性を確認しました。今回、第二段階の臨床試験として、2 年間で 40 名の患者さんにご参加いただき、効果と副作用を評価します。

ご支援のお願い

東京大学医学部附属病院と全国の協力医療機関では、スキルス胃癌、膵癌、大腸癌の克服を目指して、腹腔内化学療法の研究開発を行っています。抗癌剤パクリタキセルは、胃癌をはじめとして多くの癌に効果があり、静脈内注射用として広く使用されています。パクリタキセルの腹腔内投与は、卵巣癌や胃癌の腹膜への転移に効果があることが示されているため、腹膜に転移しやすいスキルス胃癌や腹膜転移を伴う膵癌、大腸癌に対しても効果が期待できる治療法です。

パクリタキセルは発売から約 23 年が経過した現在、多くの病院で後発品が使用され、薬の価格は下がっています。そのため、製薬会社の開発の対象から外れており、腹腔内投与の治療効果を証明するためには、医師が主導して臨床研究を行うことが必要です。しかし、臨床研究に必要な多額の費用を薬の製造販売業者から得ることは難しく、企業との協力体制が採択基準となっている公的研究費の獲得も難しい状況です。

将来的に全国の医療機関でパクリタキセル腹腔内投与を保険診療として実施できるようにするためには、臨床研究を国が定めた厳しい基準に従って実施し、有効性を証明する必要があります。臨床研究は東京大学医学部附属病院の研究費を用いて実施しますが、より質の高い研究をより迅速に実施するためには、更に研究費が必要です。現状では治すことが難しいスキルス胃癌、膵癌、大腸癌の患者さんにより良い治療を提供できるようにするため、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東京大学医学部附属病院	病院長	瀬戸 泰之
胃癌担当	外来化学療法部	石神 浩徳
	胃食道外科	山下 裕玄
膵癌担当	消化器内科	中井 陽介，高原 楠昊
大腸癌担当	大腸肛門外科	石原 聡一郎，室野 浩司

ご寄付の方法

インターネットから

以下の URL から東大基金のサイトにアクセスしてください。
https://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt117

以下の手順でもご覧いただけます。
1．「東大基金」で検索
2．トップページ ▷「プロジェクトを探す」▷「医療・健康」
3．「スキルス胃癌、膵癌、大腸癌に対する腹腔内化学療法の研究開発」

ゆうちょ銀行から

「払込取扱票」に必要事項をご記入の上、ゆうちょ銀行の ATM または窓口よりお振り込みください。
【口座名義】国立大学法人東京大学　【口座番号】00140-8-741661
「払込取扱票」は「寄付申込書」も兼ねております。

税法上の優遇措置

個人からのご寄付の場合

所得税：寄付金額（その年の総所得金額等の 40%を上限）から 2,000 円を引いた額を当該年の所得金額から控除できます。

住民税：お住まいの都道府県・市区町村が東京大学を寄付金控除の対象法人として指定している場合、個人住民税額の寄付金税額控除を受けることができます。

法人からのご寄付の場合

法人税法により寄付金の全額を損金算入することができます。
※法人からのご寄付は、基金事務局にご連絡ください。
https://utf.u-tokyo.ac.jp/privilege/merit

ご寄付の特典

安田講堂に銘板を掲示

30 万円以上のご寄付をいただいた方のお名前を銘板に刻印して、長い歴史を有する安田講堂に掲示いたします。

総長主催懇談会へご招待

今年度にはじめて 30 万円以上の寄付をいただいた個人の方及びその他所定の基準に達せられた方を、翌年度にご招待いたします。
https://utf.u-tokyo.ac.jp/privilege

協力医療機関

北海道　斗南病院，札幌医科大学附属病院
東北　山形大学医学部附属病院
関東　自治医科大学附属病院，
茨城県立中央病院，筑波大学附属病院，
帝京大学医学部附属病院，東邦大学医療センター，
順天堂大学医学部附属順天堂医院，
国立国際医療研究センター病院，
東京都立多摩総合医療センター，関東労災病院
中部　順天堂大学医学部附属静岡病院，
名古屋大学医学部附属病院，愛知県がんセンター病院，
小牧市民病院，新潟県立がんセンター新潟病院，
金沢大学附属病院，福井大学医学部附属病院
近畿　京都医療センター，
北野病院，大阪国際がんセンター，
大阪警察病院，大阪急性期総合医療センター，
近畿大学医学部附属病院，市立豊中病院，
兵庫医科大学病院，関西労災病院
中国　鳥取大学医学部附属病院，広島市立安佐市民病院
九州　九州がんセンター，九州医療センター，
長崎大学病院，鹿児島大学病院，今村総合病院　他

ご寄付についてのお問い合わせ

東京大学基金事務局
〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1
TEL : 03-5841-1217　FAX : 03-5841-1219
Email : kikin.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
WEB : https://utf.u-tokyo.ac.jp

プロジェクトについてのお問い合わせ

東京大学医学部附属病院 外来化学療法部
〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1
TEL : 03-3815-5411 (ex. 37088)
Email : ipptx-adm@umin.net